

1/19

令和二年愛南町消防出初式  
地域防災力の向上を目指し、令和初の出初式



愛媛CATV  
動画



出動するバイク隊



チェーンソーで倒木を切断し撤去



ドローンを飛ばし災害現場を確認



見事な団体行動を行う少年消防クラブ

松岡増幸<sup>ますゆき</sup>消防団長は、「住民の安心安全に努めていることや、地域の防災リーダーとして防災力を上げるといふ役割があることを誇りに思い、これからも地域住民の期待と負託に応えられるよう精進し、訓練に励んでいただきたい」と訓示を述べ、式を締めくくりました。

今年、豪雨により孤立した地域に対応することを想定した災害救助等訓練が実施され、迅速での確な団員らの対応に観客から拍手が送られていました。また、平城・城辺・一本松小学校の少年消防クラブによる人員服装点検も行われ、各クラブ隊長の号令により、きびきびと息の合った団体行動を披露したほか団員の多年にわたる消防団活動への功績に対し表彰状が授与されました。

南レク城辺公園多目的広場で、愛南町消防出初式が挙行され、愛南町内の消防団5方面隊18分団から出動した団員497人が姿勢・服装点検や小隊訓練、分列行進など規律のとれた動作を披露するとともに、防火防災への決意を新たにしました。



- 令和二年愛南町消防出初式  
被表彰者（敬称略）
- 愛媛県知事表彰  
功労章  
城辺方面隊 本部 副団長 松田憲市<sup>けんいち</sup> ほか5名
  - 愛媛県消防協会会長表彰  
功績章  
一本松方面隊 第1分団 副分団長 和田浩志<sup>ひろし</sup> ほか3名
  - 勤続章  
内海方面隊 第2分団 副分団長 織田誠<sup>まこと</sup> ほか36名
  - 愛媛県消防協会会長感謝状  
家族内助の功労者  
一本松方面隊岡原副団長夫人 岡原美幸<sup>みゆき</sup>
  - 愛南町長表彰  
西海方面隊 第3分団 部長 猪野崇<sup>たかし</sup> ほか9名
  - 愛南町消防団長表彰  
御荘方面隊 第3分団 班長 宮田賢司<sup>けんじ</sup> ほか17名

## 1/23 地元で育った養殖ブリを調理 篠山中でぎょしょく出前授業



町水産課の職員に切り方を教わりながら、養殖ブリの三枚おろしに挑戦



自ら調理したブリしゃぶやブリの照り焼きなどを味わう篠山中の生徒

地元で養殖されている魚や水産業に興味を持ってもらおうと、1月23日(木)にぎょしょく出前授業が篠山中学校であり、1年生から3年生の生徒11人や教職員が参加して養殖ブリの調理実習を行いました。

初めに町水産課の職員が、町内の水産養殖業について写真を用いて説明し、愛南町は全国でも有数のブリの養殖産地であることや、赤身魚と白身魚の違いなどを紹介すると、生徒は興味深そうに話を聞いていました。

その後、この日早朝に水揚げされた約7kgの養殖ブリを用いて、ブリの照り焼きやブリしゃぶの調理を行いました。

ブリをさばく過程では、立候補した生徒3人が三枚おろしに挑戦し、慣れない作業に苦労しながらも上手に切り分けていきました。

初めて魚をさばいたという3年生の岡原煌虎さんは、「骨のところに包丁が当たった時に硬くて切るのが難しかったが、切り終えた後には達成感があった。いつもおばあちゃんが魚をさばいているので、今度手伝いをしてみたいと思った」と感想を述べました。

## 1/24 健康的な食事をおいしくいただく 令和元年度あいなん食改味まつり



いろいろな料理に目移りしてしまう参加者の皆さん



食改味まつりに用意された栄養バランスのとれた料理

西海町民会館3階ホールで「令和元年度あいなん食改味まつり」（愛南町食生活改善推進協議会主催）が開催され、91人が来場しました。

この催しは、協議会の活動を広く知ってもらい、会員が日頃学んだ知識を基に料理を作り、地域住民にバランスのとれた食事について考えてもらおうと、毎年開催されています。

会場には各支部の会員が手分けして作った料理が並び、参加者は料理をいただき、会員と意見を交わしました。

初めて参加した濱田典男<sup>のりお</sup>さんは、「いろいろな料理があり、味も見た目も良かった。豚汁がおいしくておかわりをした」と感想を述べました。

### 今回振る舞われたメニュー

- ・焼き鯛の五目寿司(主食)・山菜おこわ(主食)
- ・ブリの甘酢あんかけ(主菜)・鶏肉のやわらか煮(主菜)
- ・豚カツの彩り野菜添え(主菜)・丸寿司(主菜)
- ・大根の甘酢包み(副菜)・野菜の生春巻き(副菜)
- ・ブロッコリーの卵マスタード(副菜)・豚汁(汁物)
- ・酒まんじゅう(デザート)・ミルクあずきかん(デザート)
- ・スイートポテト(デザート)





愛媛CATV  
動画

1/25 差別や偏見について考える人権の集い  
愛南町人権ふおーらむ 2020

御荘文化センターで「愛南町人権ふおーらむ2020」が開催され、町内外から約250人が参加しました。この会は『ひとつごと』から『わがこと』をテーマに差別や偏見を乗り越え、より良い社会を作ることを目的に行われています。

大会では、第39回全国中学校人権作文コンテスト宇和島地区大会最優秀賞を受賞した一本松中学校3年の玉田瀬名さんたまのなの人権作文が読み上げられました。

また、後半では、研究協議「人権・同和教育の今とこれから」というテーマで、高知県香南市立野市中学校長の志磨村俊二さんしゅんじと徳島県の絆創膏の会の大湾昇さんのぼるをパネリストに会場の参加者と意見交換を行い、参加者からの意見や質問に対してパネリストの2人は親身に答えていました。最後に、志磨村さんは、「地域同士が尊敬し合い、人同士が認め合い、豊かな人権感覚を育てていくことが大切です」と話し、大湾さんは、「今の時代の差別は、見たら分かるようなものではなく、潜在的にある感覚の部分から差別やいじめが起きている。潜在的なものに負けないように自分を律することが大切です」と呼びかけ、大会を締めくくりました。



作文を読む玉田瀬名さん



志磨村俊二さん(左)、大湾昇さん



心理学の専門知識をもとに話をする講師の小西佳子さん

講演終了後には、講師と参加者が意見交換を行う座談会もあり、子育てに関する悩みや疑問などを質問し、自らの経験をもとに助言する様子などが見られました。

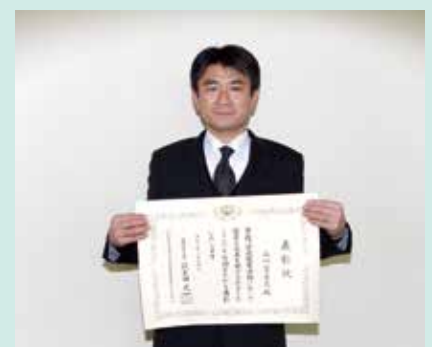
御荘夢創造館で育児講演会があり、乳幼児期の子を持つ親など9人が参加しました。この日の講演では、臨床心理士などの資格を持つ講師を招き、心理学の観点から乳幼児期の子どもの心理状況や、行動の特徴などに関する話がありました。

1/27  
子育てに関するヒント  
を夢創で育児講演会

令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰式  
文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞

1月14日(火)に東京大学の安田講堂で「令和元年度文部科学大臣優秀教職員表彰式」が行われ、御荘中学校主幹教諭の山川富美夫さんが文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞されました。

山川さんは、南宇和学校体育会で事務局長や理事長を歴任し、20年以上愛南町の体育教育に貢献してきました。これまでの功績が認められ今回の受賞となりました。山川さんは、「この賞に見合うような教員であり続けたい。南宇和の子どもたちのために、これからも体育を通してサポートしていきたい」と感想を述べました。



文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞した山川富美夫さん

## 2/1 水産業に関する情報を関係者が共有 活性化を図るための水産フォーラム開催



愛媛CATV  
動画



金尾聡志教授

愛南町の基幹産業である水産業に関する情報を共有し、今後のさらなる活性化を図るために、「第10回愛南町水産フォーラム」が御荘文化センターで開催され、漁業関係者や行政職員など約80人が参加して事業報告などに耳を傾けました。

第1部では、愛媛大学南予水産研究センターの金尾聡志教授が、愛媛大学と愛媛県が共同で平成29年度から実施している「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」（文部科学省採択事業）に関する中間報告を行い、新養殖産業の創出や養殖産業の構造改革を目指して町内でスマの養殖に関する調査研究を推進している現状に触れながら、「今後は愛媛県産養殖スマの新ブランドである“媛スマ”のブランドコンセプトの確立や、より効果的なプロモーション方法を検討することが重要」と指摘しました。



斎藤大樹准教授

また、愛媛大学南予水産研究センターの斎藤大樹准教授は、より高品質なスマを養殖するために多くの魚体サンプルを調査し、個体ごとの成長速度や形、筋繊維の太さなどの特徴を数値化してデータ解析することで、種苗生産用親魚の選抜に活かしていることなどを紹介しました。



渡邊昭生室長

第2部では、愛媛県水産研究センター研究企画室の渡邊昭生室長が、町内における魚病発生状況やワクチンによる魚病被害軽減事例などを調査研究するための「水産動物防疫体制整備モデル事業」（農林水産省採択事業）に関する報告を行い、有識者からの助言を受けて養殖魚類防疫体制整備プログラムの作成を目指していることを紹介しました。



飯田貴次教授

「内水面から学ぶ海面養殖の防疫」と題した基調講演では、岡山理科大学獣医学部の飯田貴次教授が内水面で行われる養殖で実践されている病気対策の方法を紹介し、それらが海面養殖にも適用できるかを参加者に問い、グループで議論して発表するよう促しました。その上で、「内水面の病原体管理方法を海面養殖に取り入れられるかどうかではなく、自身の衛生管理を見直して、より良い方法を考察することが重要」と話しました。

会場では愛媛大学南予水産研究センターの学部生や大学院生らが研究成果を発表するパネル展示もあり、来場者は足を止めて熱心に見入っていました。



在校生や保護者の前で決意表明を行う田中李暉さん

篠山中で唯一の2年生が少年式で決意表明

篠山中学校で「令和元年度第56回少年式」が開催され、唯一の2年生である田中李暉さんが式典に臨みました。

少年式は、県社会福祉協議会が昭和39年に県民運動の一环として、立春の日を「少年の日」と定めたことを契機に始まりました。町内で現在も式典として続いているのは、同校のみとなっています。

田中さんは、「これからは最上級生として、自覚と責任を持って行動したい」と決意表明を行いました。

2/4





愛媛CATV  
動画

2/  
4 県産かんきつの特徴などを園児が学習  
長崎保育所でかんきつ学習会

愛媛県産かんきつに興味を持ってもらおうと、長崎保育所で愛南町農業支援センター主催による「かんきつ学習会」が開催され、長崎保育所と長月保育所の園児24人が参加してかんきつについて学習しました。

この日は愛南町農業支援センターの源良行よしゆきさんが講師を務め、県内で栽培されているかんきつ24品種の現物をもとに、それぞれの旬の時期や味の特徴などについて説明すると、園児は熱心に話を聞いていました。また、ライムの香りをかいだり、搾りたての愛南ゴールドのジュースを飲む際には歓声が上がりました。

学習会に参加した長崎保育所年長組の小川穂華ほのかちゃんはこの日食べたかんきつについて、「ちょっと硬かったけどおいしかった」と満足した様子でした。



かんきつについて学習した長崎保育所・長月保育所の園児と、講師を務めた愛南町農業支援センターの職員



園児にかんきつの説明をする講師の源良行さん



輪切りにしたかんきつを見て驚く園児



花の香りや、葉や茎の感触を確かめる児童

参加した青木舜しんさんは、「花の育て方などを知れて良かった」と感想を述べました。

この日、児童らはストックや金魚草など4種類の花について門田さんから説明を受けた後、ビニールハウスに入り、咲いている花の香りをかいだり、茎や葉に触れたりする体験を行いました。

この日、児童らはストックや金魚草など4種類の花について門田さんから説明を受けた後、ビニールハウスに入り、咲いている花の香りをかいだり、茎や葉に触れたりする体験を行いました。

2/  
7 一本松地域の花づくり  
名人に学ぶ

一本松小学校の3年生22人が小山の門田園芸を訪問し、生産者の門田茂しげさんから花の育て方や花の種類などを教わりました。



献花された水産研究に用いた魚介類の供養碑

主催した武岡英隆ひでたかセンター長は、「これからも長く地域とともに歩んでいきたい」と決意を新たにしました。

日頃実験に供している水産生物の命に感謝し、地域の海を豊かにしていくことを目的として行われた取り組みで、この日は供養碑の除幕や黙とう、献花などが行われました。

愛媛大学南予水産研究センター西浦ステーションで「魚介類供養碑除幕式・供養祭」が開催され、関係者45人が出席して式典に臨みました。

2/  
13 海の命に畏敬と感謝  
研究施設に供養碑設置

2/  
7

2/  
13



愛媛CATV  
動画

## 「GAP 食材おもてなしコンテスト」南宇和高校農業科が最終審査へ進出



後列左から

秋場 瑚百さん(1年)

笛木 九豊さん(1年)

上田 叡青さん(1年)

前列左から

大元 麻由さん(1年)

中川 彩音さん(1年)

安田 望乃香さん(1年)

田中 綸さん(2年)

GAP食材を使ったおもてなしコンテストの詳細については公式サイトをご覧ください。



公式  
サイト

「GAP食材を使ったおもてなしコンテスト」にエントリーし、昨年11月にモザンビークの東京オリンピック・パラリンピック代表候補選手におもてなし活動を実施した南宇和高校農業科の取り組みが、インターネットおよび用紙による投票、その後の審査会を経て、最終審査に進む上位8校(同点があったため実際には9校)に選出されました。

GGAP(グローバルギャップ)とは、農業生産物における国際認証規格のことで、生産された農作物が食品安全やトレーサビリティ(栽培履歴管理)などの点で基準を満たしていると認められた場合に与えられる認証です。同科では、自校の農園で栽培する河内晩柑(愛南ゴールド)と甘夏が、厳しい審査を経て平成30年度に県内の高校で初めてとなるGGAP認証を取得しました。

これまでに行ってきた活動が評価されたことについて、1年生の秋場瑚百さんは、「モザンビークの方々をどうしたら喜ばせられるかを考えておもてなしを実施した。最終審査に進めてうれしい」と話しました。

3月8日(日)に行われる最終審査のプレゼンテーションに臨む1年生の<sup>かずと</sup>笛木九豊さんは、「愛南ゴールドの良さが分かるアイスづくりの大変さを伝えるとともに、他のかんきつにはない愛南ゴールドの味の特徴を伝えたい」と話し、2年生の<sup>りん</sup>田中綸さんは、「愛南ゴールドをもっと知ってもらえる良い機会なので、不安や緊張感もあるがプレゼンをがんばってきたい」と意気込みました。



3月21日(土)の15:00からの放送  
をご覧ください

部長の新井彩桜さんは、「CMを制作するにあたって、戸惑うこともありましたが、撮影でいろいろな場所を巡って、今まで知らなかった愛南町の魅力を感じることができ、良い経験になりました」と感想を述べました。

松山市総合コミュニケーションセンターで「ふるさとCM大賞えひめ120」(eat愛媛朝日主催)の審査会が開催され、南宇和高校放送部が参加し、愛南町の魅力をPRしました。

南宇和高校放送部が  
CMで特産品をPR

2/  
16